

二六年三月議会  
2月27日実施  
（久保忠一）要旨

医療先進都市鴨川のPRと  
定住人口増加について

**問** 一刻を争う急病人の三次救急受入対応の確実性において、鴨川市は全国トップレベルと思われるので、この点をアピールし定住人口増加に繋げるべきで、JRや旅行会社などもタイアップしての鴨川市定住案内ツアーなど旅行パックを開発・企画するなどの、もっと宣伝に努めるべきではないか。

**答** 非常に有効な手段と思われるので、効果的な実施方法、可能性について検討して行きます。

**問** ふるさと回帰支援センターを中心定住者の体験や地域の実情を伝えるなど、定住者促進に向けて市を挙げて取り組んでいくべきと考えているが

**答** ふるさと回帰支援センターで窓口相談や農業セミナー、空き家空地見学

会を行っておりませんが、今後首都圏で情報発信するとともに、住民と連携した移住交流事業を今以上に進めていきます。

雇用創出による高齢者等社会  
会参画支援について

**問** 移住者も含め定年退職後の高齢者などに対し雇用のマッチングを行うことが自立支援と生きがいづくりにつながる。シルバー人材センターの役割をより活性化すべきだが、現在の市との関わりと今後のサポートについて

**答** 国の示す補助基準に基づき、昨年度は710万円を、機能強化と自主的運営基盤の確立を目的に市より交付している他、市からの業務発注や広報への掲載等、活動周知に対する支援も併せて行い、今後も同人材センターの充実・発展が高齢者の生きがい作りに大きく寄与するよう努力いたします。

**問** 市独自の介護保険外の必要なサービスの提供について

とならない突然の怪我などにより介護や家事援助が必要になった時に、介護保険制度を準用できるような緊急の対応ができる制度を検討できないか。

**答** 六十五歳以上の場合「鴨川市高齢者生活支援ホームヘルプサービス事業実施要綱」に基づき、軽度の「要支援認定者」の自己負担額に準じた費用でサービスを提供できますが、「特定疾患」のみが介護保険の対象の六十五歳未満では緊急一時的な生活支援制度がないため、福祉総合相談センターにおいて関係機関と調整し制度の隙間を埋める支援を行えるよう協力いたします。

**問** 医療介護現場と市職員が様々なニーズに柔軟に対応できるように柔軟等をお願いしたい。

**答** 専門職種の研修会など、顔の見える関係作りを努めながら、必要に応じた政策形成も図って参ります。

健康づくりとスポーツ施設について

**問** 健康づくりと言う点で中高年のスポーツ振興も重要であり、ひいては医療費介護費の軽減につながる市のスポーツ施設の利用料金をどう見直し、利用しやすくするべきと考える。特に一戦場のテニスコート料金は他市や民間に比べても割高である。

**答** 教育委員会では、今後も各種のスポーツ大会や教室等を開催するとともに、体育施設の適切な維持管理と整備充実に努め、市民のスポーツ振興や健康増進を推進したいと考えています。料金体系も概ね適切とは考えていますが、都市建設課所管の一戦場テニスコートについてはそのような指摘もあり、現在検討しております。

**問** 女子サッカーチームもできサッカー場などの芝生の管理など専門性を要する部分も出てくる。また、ボランティアも利用した手入れなど、利用頻度を高める

ための工夫が必要では。

**答** 利用者ボランティアも含め今後の管理方法については十分検討いたします。日本代表オリンピック等合宿地誘致活動と総合施設整備について

**問** 現在の誘致の取組について伺う。

**答** 練習施設の視察、各方面関係者へのPR活動を行っており、庁内会議を立ち上げ誘致に向けて取り組んでおります。

**問** 医療依存度の高いパラリンピックに絞ったほうが鴨川の特性をより生かせるし、実現可能性も高いのでは。

**答** その通りであり、パラリンピックや障害者スポーツ施設誘致も想定した中で誘致活動に取り組んで参ります。

**問** 総合施設整備はオリンピック等誘致活動とは切り離して考えているのか。

**答** これまでの新市民会館の整備検討の流れの中で整備が行われており、オリンピックパラリンピック合宿地誘致活動の結果に関わら